

帯広市の福祉充実願

宮坂建設工業 車いす5台

【帯広】宮坂建設工業（株）（帯広、宮坂寿文社長）は9日、帯広市に車いす5台を寄贈した。同社は19年続く社会貢献活動。高道伸取締役社長室長が田中敬二副市長に目録を手渡し、福祉の充実を願った。

同社は、創始者の遺訓である「世の為人の為についで」の精神のもと、地域への恩返しのため、2008年より車いすの寄贈を行っている。寄贈に当た

ては、事務所や現場から発生した新聞紙や鉄くずなどの廃棄物をリサイクルポイント化する制度を活用。貯まったポイントを車いすと交換し、帯広市のほか、札幌市と釧路市に贈っている。

例年は各市に毎年3台ずつ贈っているが、今回は同社が施工に携わったよつ葉アリーナ十勝（帯広市総合体育館）のオープンを記念し、シャワー用車いす2台を加えたら5台を寄贈した。

9日は、高道取締役社長室長のほか、加藤兆基専務執行役員、武山純総務部長、青山隆太主事補が市役所を訪問。高道取締役社長室長が田中副市長に目録を贈呈。田中副市長は長年にわたる貢献活動をたたえて感謝状を贈った。

今回を含めた帯広市への寄贈台数は13年間で41台。3市への累計寄贈台数は、

今回の5台と4月に釧路市に寄贈した3台を加えると118台にも及ぶ。

帯広市では、今回寄贈された5台について、豊成小学校、帯広第五中学校、帯



広火葬場で通常の車いす各1台、よつ葉アリーナ十勝1台。

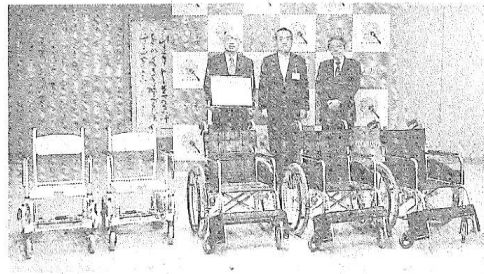
感謝状を手にする高道取締役社長室長（左）

でシャワー用車いす2台を活用する予定。高道取締役社長室長は「これからますます高齢化が進んでいく。高齢者や体が不自由な方に喜んでもらえるよう、活動

車椅子5台 帯広市に寄贈

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広）は9日、



帯広市に車椅子5台を寄贈した。高道伸社長室長らが市庁舎を訪れて贈呈

し、田中敬二副市長から感謝状を受けた写真。

地域貢献として2008年から毎年、市へ車椅子3台を贈っている。今回は同社が施工に携わったよつ葉アリーナ十勝（市総合体育館）のオープンを記念し、シャワー用車椅子2台も寄贈した。

## 寄付

◆宮坂建設工業が帯広市に車いすを寄贈

高道伸社長室長と写真左  
と加藤兆基専務と写真右  
が9日に市役所を訪れ、田  
中敬二副市長に車いす5台  
(25万円相当)を贈った。

2008年から廃品回収  
業者のリサイクルポイント  
制度を利用し、交換した車  
いすを帯広市と、支社があ  
る釧路市、札幌市に毎年3  
台ずつ寄贈している。  
今年はやつ葉アリーナの

オープンを記念し自走式車  
いす3台に加え、シャワー  
用車いす2台も寄贈した。  
高道氏は「高齢者や体の不  
自由な人に喜んでもらいた  
い」と述べた。

